

城東学園新たな学園づくり第2回地域意見交換会資料

新たな学園づくり地域検討委員会 進捗状況

平成30年8月

新たな学園づくり地域検討委員会



自己紹介

- 氏名 鈴木克壽 (すずき かつとし)
- 前職 小中学校 教育委員会 (38年間)
 - ①千浜小 ②本川根南小 ③内田小
 - ④大須賀中 ⑤附属島田中 ⑥掛川 西中
 - ⑦掛川市教委 ⑧掛川 北中 ⑨掛川 東中
 - ⑩掛川 中小 ⑪附属島田中 ⑫掛川 北中
 - H19,20年度
- 現職 静岡大学 (4年目)
- 自宅 掛川市大須賀

話の内容

- 1 委員会紹介
- 2 経過説明
※提言の方向性
- 3 今後の計画紹介

委員会紹介 ➡

背景

- 前委員会
 - ・名称…『中学校区学園化構想第2ステージ 検討委員会』
 - ・期間…平成28年6月～29年3月
 - ・内容…各学園の充実・発展
※鈴木…副委員長として参加
- 本委員会
 - 『新たな学園づくり地域検討委員会』
 - ・期間…平成29年12月～31年3月
 - ・城東学園・原野谷学園に設置

組織

No.	役職	区 分	人数
1	委員長	静岡大学特任教授	1
2	副委員長	子ども育成支援協議会長代表	1
3	委員	市議会議員	1
4	〃	まちづくり協議会長(前、新)	4
5	〃	区内企業代表	2
6	〃	各保幼小中PTA保護者代表	30
7	〃	乳幼児を持つ保護者代表	8
8	〃	地域コーディネーター(前、新)	3
9	〃	小・中学校長	4
10	〃	幼稚園長代表	1
11	〃	城東保育園長	1
	計		30

目的・計画・会場

- 目的
城東学園の小中一貫教育を推進するための最善の学校の在り方を検討しその方向性を提言する。
- 計画
1年3か月間(H29.12~31.3)に8回開催予定 ※これまでに5回開催
- 会場・時間
大東北公民館 19:00~20:30

経過(第1回~5回) →

第1回委員会

- 期日
平成29年12月12日(火)
- 内容
1 掛川市教育委員会による趣旨及び概要説明
(1) 掛川市の教育
(2) 世の中の動き
(3) 小中一貫教育
2 自由発言

第1回委員会を終えて

- 主な感想
 - ・一度に理解することは難しい。
 - ・学習の必要性あり!

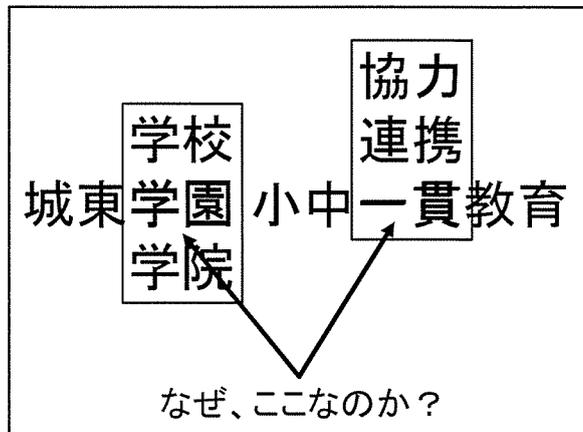
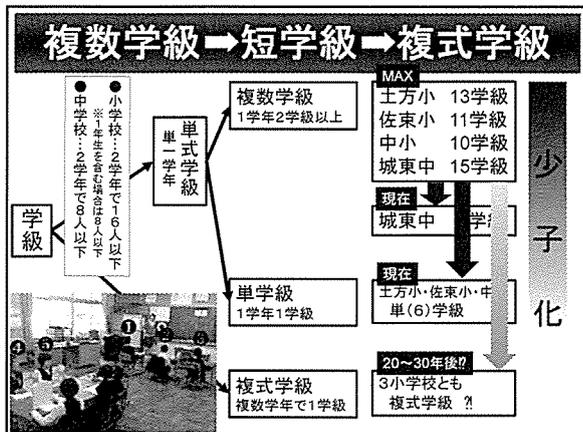
第2回委員会

- 期日
平成30年1月31日(水)
- 内容
1 委員長による説明
(1) 世の中の動き →
(2) 小中一貫教育 →
2 グループ協議

世の中の動き

国際化 情報化 多様化 高齢化 少子化

- 社会の変化に伴い、学校も変化
- 特に、少子化→人口減少は大問題
- 地域、経済、保護者、子ども、施設等、多面的な視点での考察が必要
→各立場で率直な発言をしていこう!
- 数十年後の城東学園のイメージ化が必要
・3小学校とも減少傾向
複数学級→単学級→やがて、複式学級



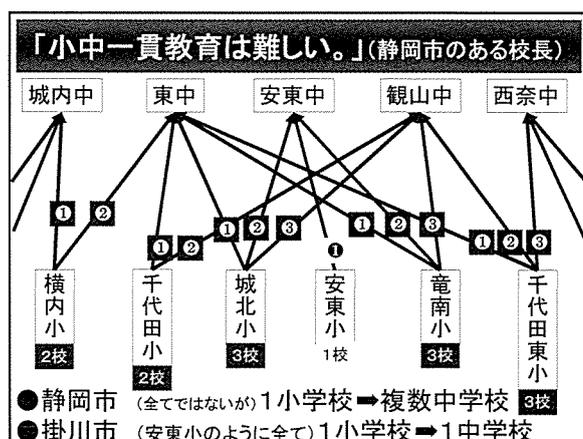
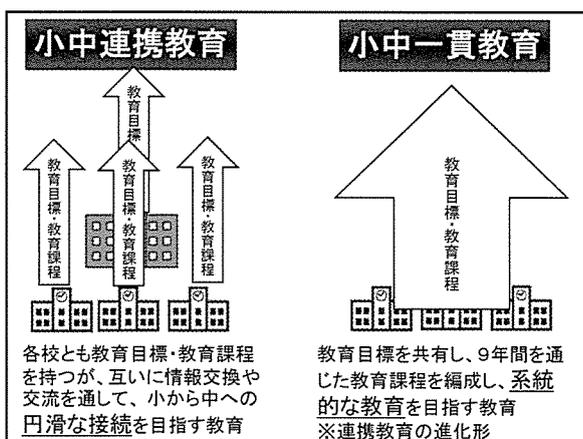
学校・学園・学院

- 学校 [例] 土方小学校 城東中学校
・児童生徒学生を教育する施設
- 学園 [例] 静岡学園
・下級～上級にわたるいくつかの学校を含んだ組織
・正式名称・・・静岡学園中学校・高等学校
1中学校、1高校の学校の集まり
・城東学園・・・3小学校、1中学校の学校の集まり
- 学院 [例] 青山学院大学
・キリスト教系の私立学校などで多く用いられる。

正直なところ、学園意識は低い!!

協力・連携・一貫

- 協力教育... ×
[例] 市環境イベントに協力する。
学校 市
- 連携教育... ○
[例] 小中学校が連携して防災訓練を行う。
小学校 中学校
- 一貫教育... ○
[例] 特別支援学校は、小学部・中学部・高等部等が一貫した教育を行っている。
小学部



「静岡型一貫教育」 小中に説明DVD 市教委HPでも公開

それでも、静岡市は
小中一貫教育を推進
する！

た、市内の各小中学校の学区の教職員や
一貫校に転入するほ 保護者、地域住民ら
が、市ホームページで、本年度から
委員を構成し、委員会の審議を通
して、DVDは一貫教育の
特色や特徴、今後のス
ケジュールを盛り込
だ。市教委の審議中
と已久保小が連携し
取り組む英検の合同授
業や静岡市の中島小で
行っている中島生徒
に「あゆみ」の活動な
ど、一貫校も紹介して
いる。

2017.4.19
静岡新聞

小中一貫教育の推進理由

皆様は中学校に進学するとき不安
や小学校とのギャップを感じたこと
がありませんでしたか？

- 「いいね！」
 - ・生徒指導…進学不安減、上級生へのあこがれ、下級生への手本、中1ギャップの緩和等
 - ・学習指導…学習の「規律、習慣、意欲」の向上等
 - ・教職員 …共通実践効果 仕事分担等

小中一貫校の施設形態(『型』)

- 一体型
[例]浜松市立 庄内学園
- 隣接型
[例]城東学園の幼稚園・小学校
- 分離型
[例]現在の城東学園小・中学校

小中一貫教育まとめ

- 小中一貫教育の種類や型は様々ある。
- 現状でも、「分離型」小中一貫校を進めることは(ある程度)可能。
- より充実した教育を求めるために、城東学園として、どんな設計図を描くか？

掛川市小中一貫教育推進基本方針

- 全部で8項目
[例]
①掛川市の特色である中学校区学園化構想を生かして、学園ごとの枠組みを基本に進めます。

(現時点で、)
中学校の統合は考えていない。

世の中の動き・小中一貫教育 まとめ

- 小中「一貫」教育
 - ・型は様々 一体型、隣接型、分離型
 - ・最充実型の検討
- 人口減に伴う「統合」
 - ・危機感の必要性
 - ・数十年後のイメージ
- 市教委の基本方針
 - ・中学校学園化

第2回委員会を終えて

- 成果
「新たな学園づくり」の検討の必要性を概ね理解できた。
- 課題
今一步、具体的なイメージが見えない。

第3回委員会

- 期日
平成30年3月16日(金)
- 内容
 - 1 委員長による説明
 - (1) 城東学園のデータ確認 ⇨
 - (2) 学園のイメージ化 ⇨
 - 2 グループ協議

城東学園データ確認 ⇨

Q 今後、児童数はどう推移するか？

学校	1995 H7年	2017 H29年	22年 間の 増減	年平均 増減数	2027年 10年後	2037年 20年後	2047年 30年後	2057年 40年後	2067年 50年後	0人に なる年
土方	223	148	-75	-3.41	113	80	46 複式?	12	0	2060年 43年後
佐東	252	164	-88	-4.00	124	84	44 複式?	4	0	2058年 41年後
中小	174	107	-67	-3.05	76	46 複式?	15	0	0	2052年 35年後

※最も児童数が多かった年度とH29年度の差

学校名	年度	児童数	H29との差	年平均増減数
土方小	S32	609人	-461人(60年間)	-7.68人
佐東小	S21	462人	-298人(71年間)	-4.20人
中小	S23	412人	-305人(69年間)	-4.42人

Q 統合(一体化)した場合の規模と必要教室数？

平成35年度児童生徒数・学級数(現1歳児の入学年度)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
土方小	20	21	23	28	29	32	153
佐東小	11	25	23	32	31	24	146
中小	16	9	18	16	22	21	102
計	47	55	64	76	82	77	401
学級数	2	2	2	3	3	3	15
城東中	65	71	71				207
学級数	2	3	3				8

- 小学校統合に必要な普通教室数
…15教室+特支教室等
- 小中一体化に必要な普通教室数
…23(15+8)教室+特支教室等

静岡式35人学級

○36人→2学級 35人→1学級
○71人→3学級 70人→2学級
■城東中2、3年は微妙!

Q 現校舎で対応することは可能か

平成29年度 普通教室使用状況

	普通 教室	特支 教室	計	他 普通教室	計
土方小	6	0	6	4 児童会室、生活科室、絵本 ルーム、多目的学習室	10

- 現校舎(各小)での小学校統合(15教室) …無理
- " (城東中)での小中学校一体化(23") …無理
- ⇨ 現校舎を使用する場合は…増築が必要

Q 校舎の老朽化状況は？

No.	学校名	建築年度	経過年数
1	第一小	1963	s38
3	千浜小	1964	s39
4	西山口小	1966	s41
5	曾我小	1970	s45
6	原谷小	1971	s46
7	大坂小	1972	s47
8	大淵小	1973	s48
9	城北小	1974	s49
9	横須賀小	1974	s49
11	上内田小	1976	s51
12	第二小	1977	s52
13	日坂小	1978	s53
14	和田岡小	1979	s54
14	西郷小	1979	s54
14	中央小	1979	s54
17	桜木小	1980	s55
17	原田小	1980	s55
19	東山口小	1981	s56
19	倉真小	1981	s56
19	佐東小	1981	s56
22	中央小	2017	h29

No.	学校名	建築年度	経過年数
1	原野谷中	1961	s36
2	西中	1968	s43
3	東中	1969	s44
5	栄川中	1978	s53
6	桜が丘中	1980	s55
6	大浜中	1980	s55
8	北中	1998	h10
9	大須賀中	2002	h14

●結果
 ・土方小…古校舎ランキング1位
 ・中小・佐東小・城東中も新しくはない。
 ・毎年1校ずつ新築すると…佐東小は、25年後(25番目)

Q 平成元年度以降 校舎等の全面改修は？

校舎	体育館	プール
中央小 H29	大坂小 H28	土方小 H15
大須賀中 H14	原野谷中 H22	大須賀中 H15
北中 H10	北中 H21	第一小 H7
	桜が丘中 H19	西中 H5
	西中 H17	大淵小 H4
	横須賀小 H17	中央小 H3
	東中 H16	東山口小 H1
	大須賀中 H15	城北小 H1

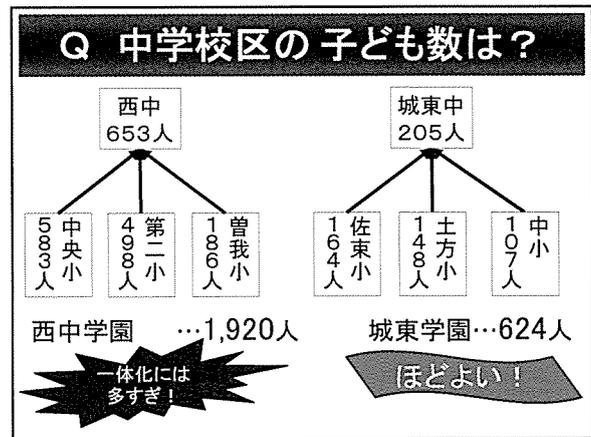
●結果
 ・校舎改修は、この30年間に3回のみ
 ・付随施設(体育館やプール)の改修もあり
 ・大須賀中は、同時期に(校舎・体育館・プール)改修
 ・城東学園…土方小プールのみ改修

Q 城東学園の校舎・体育館・プールの経過状況

経過年数 ■30年未満 ■30年以上 ■40年以上 ■50年以上

学校名	校舎	体育館	プール
土方小	S38	S51 42年	H15 15年
佐東小	S56 37 "	S52 41 "	S40
中小	S54 39 "	S54 39 "	S56 37 "
城東中	S49 44 "	S51 42 "	S50 43 "
平均	43.8年	41.0年	37.0年

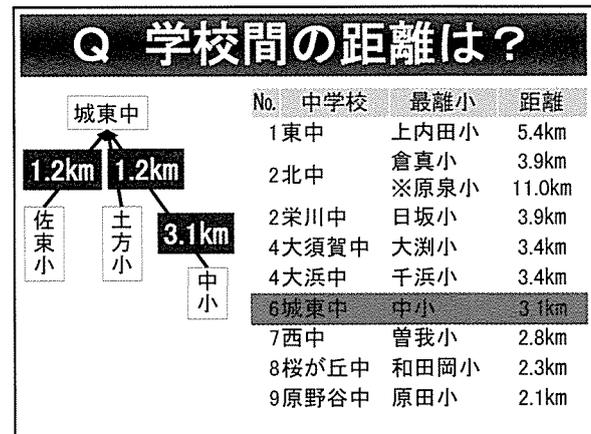
●結果
 ・校舎だけでなく、体育館やプールも経年劣化の傾向あり。
 ・校舎だけでなく、体育館やプールも考える必要あり。



Q 各学園の子ども数は？

No.	学園	子ども数
1	西中	1,920
2	東中	1,787
3	北中	1,577
4	桜が丘中	1,288
5	大浜中	902
6	大須賀中	889
7	城東中	624
8	原野谷中	403
9	栄川中	326

No.	学校名	児童数	No.	学校名	生徒数
1	桜木小	689	1	西中	653
2	第一小	605	2	東中	530
3	城北小	604	3	北中	523
4	中央小	583	4	桜が丘中	427
5	西山口小	527	5	大浜中	321
6	第二小	498	6	大須賀中	306
7	横須賀小	411	7	城東中	205
8	大坂小	410	8	原野谷中	116
9	西郷小	379	9	栄川中	102
10	原谷小	211			
11	曾我小	186			
12	和田岡小	172			
13	大淵小	172			
14	千浜小	171			
15	佐東小	164			
16	土方小	148			
17	東山口小	144			
18	上内田小	125			
19	中央小	107			
20	日坂小	80			
21	原田小	76			
22	倉真小	71			

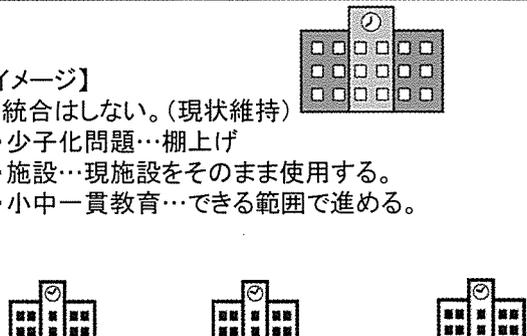


城東学園イメージ化➡

1 分離型（現状維持型）

【イメージ】

- 統合はしない。（現状維持）
- ・ 少子化問題… 棚上げ
- ・ 施設… 現施設をそのまま使用する。
- ・ 小中一貫教育… できる範囲で進める。



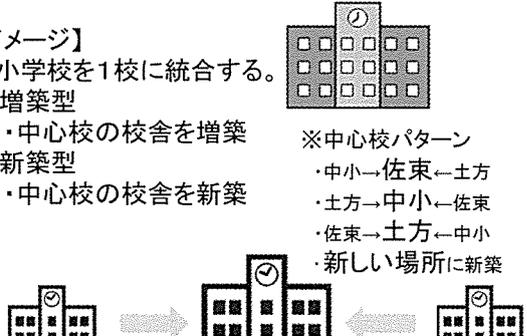
2 分離統合型

【イメージ】

- 小学校を1校に統合する。
- ・ 増築型
 - ・ 中心校の校舎を増築
- ・ 新築型
 - ・ 中心校の校舎を新築

※中心校パターン

- ・ 中小→佐東←土方
- ・ 土方→中小←佐東
- ・ 佐東→土方←中小
- ・ 新しい場所に新築



3 隣接型

【イメージ】

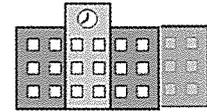
- 城東中に隣接して小学校を立てる。
- ・ 小学校新築型
 - ・ 城東中… 現状のまま
 - ・ 統合小学校… 隣接新築
- ・ 小中学校新築型
 - ・ 城東中… 新築
 - ・ 統合小学校… 隣接新築



4 一体増築型

【イメージ】

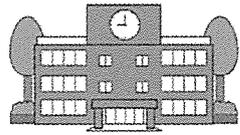
- 城東中を増築し、小学校を入れる。



5 一体新築型

【イメージ】

- 城東学園一体化校舎を新築する。



6 4-5型

【イメージ】

- 小学校低中学年を現在校に置き、小学校高学年を城東中を増築し、入れる。
※6-3制を4-5制に変える。

小5, 6, 中1, 2, 3

小1, 2, 3, 4

第3回委員会を終えて

- 成果
 - ・城東学園の子ども数や施設状況、学園のイメージ化について理解を深めることができた。
- 課題
 - ・城東学園の一貫教育の現状や課題は何か。

第4回委員会

- 期日
平成30年5月23日(水)
- 内容
 - 1 城東中学校長の説明
 - ・城東学園の小中一貫教育 ⇨
 - 2 グループ協議

城東学園小中一貫教育研究

- 経過
 - 平成23,24年度
 - ・市指定研究「中学校区学園化構想研究」
 - 平成25～28年度
 - ・研究成果の継続・発展
 - ・市内各中学校区への広がり
 - 平成29～31年度
 - ・市指定研究「小中一貫教育研究」

近年、城東学園は先取的に小中一貫教育研究を推進している。

- 成果
 - [子ども]
 - ・合同宿泊訓練など、小学校間の様々な交流
 - ➡ 中学入学時の人間関係ストレス少
 - ・小学生が中学生や中学教員に触れ合う機会増
 - ➡ 進学への安心感
 - [教員]
 - ・小中の教員間の協力意識の高まり
 - ・小中の指導内容の系統性理解の深まり

小中一貫教育の良さ(効果)を実感

- 課題
 - ・交流の際の移動時間の確保
 - ・授業等における交流指導の難しさ

[例]

3時間目	休み時間	4時間目
城東中2年英語	移動	〇〇小6年英語

※現状では、「行事」交流が中心

- 展望
 - ・小中一貫教育の一層の推進

第4回委員会を終えて

- 感想
 - ・城東学園の小中一貫教育の現状や課題などについて理解を深めることができた。
- 課題
 - ・予算面の現状や課題、方針

第5回委員会

- 期日
 - 平成30年7月11日(水)
- 内容
 - 1 市公共施設マネジメント室長による説明 ⇨
 - 2 本委員会2～4回の発言整理⇨
 - 3 委員一人一人の意見発表

公共施設マネジメント室長の説明

- 本市の公共施設の現状
 - ・公共施設数は？
 - 計212（このうち、学校・給食センター等 42）
 - ・築30年以上の数は？
 - 49.1%
 - ・施設の維持更新費用は？
 - 年約30億円
 - ・インフラ(道路、上下水道、橋、林道等)の維持更新費用は？
 - 年約40～60億円

併せて、年約100億円 → 市の予算を圧迫

- 公共施設の管理方針
 - 考え方
 - 新設⇒賢く、長く、丁寧に使う
 - 保有数の適正化
 - 4割削減
 - 長寿命化と安全確保
 - 保全、耐震
 - 運営管理の適正化
 - 経費縮減・官民協働 等

- 学校管理の方向性
 - 校舎の老朽化
 - ・計画的な改修、改築による長寿命化
 - 少子化
 - ・適正規模、適正配置の検討

予算面…学校の置かれた状況は厳しい。
 (「学校は聖域」と言えない状況)

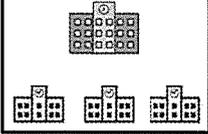
※夕張市 S35年 117,000人 → H28年 8,851人
 小学校27校→現在1校
 中学校10校→現在1校 ※市立図書館閉鎖

第2～4回 発言整理

別紙

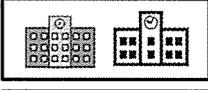
委員一人一人の意見発表

A案 (分離(現状維持)型
一貫教育)



B案

B1案 (小学校統合型一貫教育)
小学校のみの統合



B2案 (小中一体型一貫教育)
小中の統合



第5回委員会を終えて

- **成果**
 - ・市の公共施設の現状と課題についての理解が深まった。
 - ・提言の方向性がほぼ決定した。
- **課題**
 - ・先進校の状況把握

今後の計画

第6回 平成30年9月4日(火)

- 中央小参観
 - ・児童数583人 ※土方・佐東・中 419人
 - ・校舎改修…平成29年度
- 本委員会の提言内容の確定

第7・8(最終回)回

- 提言書の検討・確定

おわりに(私見)

- 誰もが思うこと
 - ・学校は地域の太陽
 - ・母校がなくなるのは寂しい。
 - ・学校をなくすのは反対!
- しかし、
 - ・状況(取り巻く環境)は時代と共に変化
 - ・学校が地域の太陽であり続けるために、変化に適応することは大人の責務
- マイナス思考 ➡ プラス思考



第2・3・4回発言整理

30.7.11 新たな学園づくり地域検討委員会

1 発言数

	内容	1G	2G	3G	4G	5G	計
第2回	全体概要 等	15	18	20	28	17	98
第3回	城東学園現状 等	9	22	30	25	18	104
第4回	小中一貫教育	12	13	7			32
計		36	53	57	53	35	234

2 発言整理における（再）確認

(1) 児童数予測

学校	1995 H7年	2017 H29年	22年間 の増減	平均 年増減数	2027年 10年後	2037年 20年後	2047年 30年後	2057年 40年後	2067年 50年後	0人に なる年
土方	223	148	-75人	-3.41人	113	80	46 複式?!	12	0	2060年 43年後
佐東	252	164	-88人	-4.00人	124	84	44 複式?!	4	0	2058年 41年後
中小	174	107	-67人	-3.05人	76	46 複式?!	15	0	0	2052年 35年後

※最も児童数が多かった年度とH29年度の差

学校名	年度	児童数	H29との差	年増減数
土方小	S32	609人	-461人(60年間)	-7.68人
佐東小	S21	462人	-298人(71年間)	-4.20人
中小	S23	412人	-305人(69年間)	-4.42人

【複式学級】

・小学校…他学年と合わせて
16人以下

※1年生を含むときは8人

(2) 小中一貫教育の『型』

No.	型	予想される成果	予想される問題点
1	分離（現状維持）型	発言あり	発言あり
2	分離（小学校統合）型 ・統合小…増築、新築 ※城東中…現状維持 ・中学隣接統合小…新築 ※城東中…現状維持 ・中学隣接統合小…新築 ※城東中…新築	発言あり	発言あり
3	一体型 ・城東中の増築 ・小中一体化校舎の新築	発言あり	発言あり
4	4－5型（6-3制⇒4-5制）	発言なし	発言なし

※増築賛成発言なし

3 発言整理

型	予想される成果	予想される問題点
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">現状維持型 一貫教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近くに学校があれば、通うのに便利である。 ・先生が目が行き届き、勉強面で保護者としての不安がないと思う。 ・小規模校では異学年交流が密で、高学年の子が低学年の子を世話するなど、高学年の子が育っていくメリットがある。 ・小学校の校庭には、ドクターヘリが降りられるなど、地域の防災の拠点機能がある。 	<p>【子どもにとって】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数単学級は、人間関係が固定化し、クラス替えがなく子どものクラスでの立ち位置が決まってしまう。 ・幼稚園から6年生まで同じ顔で暮らし、競争心は衰える。クラス替えがあれば、気持ちを新たに頑張ろうと思う。 ・いろいろな人と接する機会があって、いろんな話や遊びをすることが大事である。 ・城東地区はほのぼのとした雰囲気があるが、幼稚園から大規模校の子とは打たれ強さが違う。色々なタイプの人と接する環境を整えていくことも必要。 ・高学年になってくると男女差・個人差が大きくなってくるので、少人数の単学級では、球技などで得意でない子たちの活躍できる場面がなくなってしまう。子どもの数が多ければ、チーム分けによってそういったことも解消できる。 <p>【学校・教員にとって】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然教室の他に、学習での交流を考えたいが、教科の中では難しいところがある。やはり行事の交流が中心となる。 ・子どもたちの交流を図るためには、教員同士の打合せ時間が必要であるが、その時間を生み出すことが難しい。 ・交流を行う計画をしているが、移動手段は大きな課題となっている。 ・小さな学校が多いが、校地が広く管理が大変である。 ・PTAの古紙回収も大変である。 ・クラブ活動も少ない人数の先生だけではできない。 ・小さな学校でも大きい学校と同じようにやらなくてはいけないことは同じようにある。教員の負担は大きい。

		<ul style="list-style-type: none"> ・小さい学校はとても大変で、職員が出張の時、校長は授業に入ったり、電話番号をしたりしなければならないことがある。 【地域にとって】 ・こども園ができるのに、分離型の現状維持では幼稚園や保育園が1つになる意味がない。 ・(子どもの数が減って)本当に困った時、どうするのか。 ・人口減のことなどを考えると、学校がなくなると言っている状況ではない。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">小学校統合型(小のみ統合)一貫教育</p>	<p>○たくさんの友達とふれ合えてよい。</p> <p>○クラス替えがあり、新たな気持ちでスタートできる。</p> <p>○地区の小学校がなくなるのは寂しいが、このままでは財源が底をつく。</p> <p>* ○は小中一体型と共通</p>	<p>○通学の安心安全は保障しないとけない。</p> <p>○学校が統合したときに、遠くの人はどうやって通うのか。また、通学費用はどうなるのか。</p> <p>○既存の小学校にあった地域コミュニティや防災の拠点機能をどう維持するのか。</p> <p>○学校の場所、通学方法、バス、通学路などの課題がある。</p> <p>○保護者説明会の意見としては、見守りがなくなるのが寂しいので反対という意見もあった。</p> <p>* ○は小中一体型と共通</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">小中一体型(小中の統合)一貫教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一体校になれば、特別支援学級の子が学園外の離れた学校に通わなくても、同じ地域の学校に通えるようになるのではないかと。 ・城東中を中心としたエリアに幼保・小・中学校が集まって、この地域の子供たちは皆ここに通って学ぶということになれば、環境の変化による中1ギャップなどもなくなる。 ・教科担任制など、1つの学校になった方がいろいろなことを展開しやすい。 ・コスト面を考えると、「一体新築型」が一番よい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一体型では、どの学年段階でリーダーシップを取っていくのか。 ・一体型にしてしまうと、小学校と中学校の連続が子どもにとって刺激にならないのではないかと。

4 その他の発言

(1) こども園との関係

- ・こども園ができて、一緒に過ごした園児たちが小学校で分かれるのはどうなのか。
- ・こども園周辺に小学校・中学校ができれば理想である。
- ・こども園は教育委員会の管轄ではないが、場所等を早く決めていかないと迷ってしまう。

(2) 場所

- ・用地は城東中を中心に置いた方がよい。インフラを考えると城東中中心がよい。

(3) 防災

- ・防災拠点を心配している人もいる。今の学校の跡地を上手く利用すればよい。

(4) 通学バス

- ・登下校において、不審者問題もあるので、バス等安全の確保された方法で通ってほしい。それに街の人々も乗れるようになるとよい。教育だけではなく、街全体がどう広がっていくのかも考える必要がある。この地区にもっと人が集まることをイメージしたい。
- ・中地区は、バスが廃止になり交通手段がない。

(5) 一層の計画推進

- ・中小から15人中3人が、城東中以外の外の中学校へ行ってしまう。城東中自体が空洞化する。城東中学区内から必ずしも城東中へ入るとは限らない。私立へ行く人もいる。早くやっけていかないと他へ移ってしまう。学区外その他中学校へ行く子がいる現状を心配している
- ・最近、旧掛川市へ移っていく若い人が多い気がする。城東中すら存続が難しくなってくる。旧掛川市内へ通わなくてはいけなくなると思うと、城東内で通える方がよい。

(6) 学区

- ・昔、中地域は大浜中学校の前身の城南中学校へ通っていた歴史があり、地域の中では大浜中学校の方が近いから、城東中学校にこだわらなければそちらへ通っても良いのではという意見もある。

(7) 付帯施設、機能

- ・例えば、城東中学校の近くに「さんりーな」のような施設を建設し、水泳の授業等をそこで行う。指導者は民間の方に依頼することで、指導効果が上がる。他の部活動も同様にできるようになれば良い。スポーツ少年団もその中に入ることで、一貫した指導がなされて、部活が強くなるかもしれない。さらに塾等、色々な施設が入ってくることはすごくよい。
- ・中学校では、生徒数減少に伴い、教職員の人数も減り、それぞれの部活動について、未経験の教員が担当している。他の施設があり、専門性のある指導者がいれば、色々な可能性が広がる。
- ・全国にないような学校ができれば人が集まってくる。夢はどんどん広がる。
- ・昔、バレーボールのスポーツ少年団の監督を行った時、団員は11人ぐらいで、どうしても桜木小のような大きな学校には勝てない。人数が集まり、大きな母体の中でス

ポーツ少年団の活動ができると良い。

- ・仮に統廃合することになったとしても、旧校舎をコミュニティセンターとし、地域住民が活用できる場を残していくといったことを地域に伝えていくのがよいのではないかと。

(8) 本会の運営

- ・少子化で、学校を一緒にせざるを得ないと思う。意見を聞くことも大切だが、ぐずぐずしているのは良くない。
- ・良い面をアピールして、早めに決めた方が良い。

(9) その他

- ・小中一貫教育について保護者に伝わりにくく、同じ学園であるという意識は育ちにくい。
- ・320人体制のこども園設置と東京女子医科大学の撤退もある。一体型の具体案がほしい。